

令和5年度 単位PTA会長・女性部長情報交換会 まとめ

蒲郡市小中学校PTA連絡協議会

1 開催日時・会場

令和5年9月2日(土) 13:30~15:00 蒲郡市民会館大会議室

2 参加者

蒲郡市小中学校PTA連絡協議会役員 10名 蒲郡市内単位PTA役員 32名

3 アンケート結果

※回答者数 35名(小学校保護者 24名 中学校保護者 11名)

(1) 開催時期、実施曜日について

- ① 開催時期 ア 9月実施でよい 34名 イ 別の時期がよい 0名
- ② 実施曜日 ア 土曜日実施でよい 29名 イ 他の曜日がよい 2名 (金曜日 1名 平日 1名)

(2) 話し合いの時間について

ア 1時間でよい 33名 イ もっと時間が欲しい 1名 ウ もっと短くてよい 1名

(3) 話し合った内容は今後の参考になったか

ア 参考になった 34名 イ あまり参考にならなかった 0名

(4) 話し合いのテーマについて

- ① 「PTA活動を進めるうえでの困りごと」 ア よかった 33名 イ よくなかった 1名
- ② 「単位PTAの特色ある活動」 ア よかった 32名 イ よくなかった 2名
- ③ 「PTA役員の負担軽減の工夫」 ア よかった 31名 イ よくなかった 2名
- ④ テーマとして扱って欲しい内容
 - ふれあい活動について
 - 資源回収の工夫
 - PTAの役割、あり方など考えていけるとよいと思う。
 - 活動を削減しているなか、新規の活動が少ないため、②のテーマは変えた方がよい。

(5) 来年度以降の情報交換会の参加者について(※市P連規約改正で、令和6年度より「女性部長」という役職がなくなる)

ア 会長と副会長の参加を基本とする 16名 イ 役職に関係なく役員2名以上が参加する 14名
ウ その他 2名 (役職関係なく1名参加 1名 会長とその他役員1名参加 1名)

(6) その他、情報交換会に関する意見

- 他地域の活動などを聞き、大変参考になった。
- それぞれの学校のことが分かってよかった。
- とても有意義な時間となった。
- 学校によってPTAの活動が全く違うことに驚いた。
- 他地域がどういった活動をしているか知るのがいい機会になった。今回の意見を共有できるといい。
- 各単位PTAの困りごと、活動(特に事務内容、役員選出方法など)は、全体で共有できると、自Pの改善に役立てることができると思った。
- すぐに取り入れられるわけではないが、他校の様子をいろいろ聞くことができ楽しかった。

- 1部屋に6グループのディスカッションは、他からの声が聞こえる為、会話しにくかった。仕切り等があればよかった。
- 必ず2名出席するというような負担につながる招集は控えていただきたい。

4 アンケート結果を受け

- 開催時期、実施曜日、話し合いの時間については、現状でよいという意見が多数であるため、来年度以降も同様の形で実施したい。
- 話し合いのテーマについては、現状の3点でよいという意見が多数だが、負担軽減のため活動を削減する単位PTAも多く、その中で「特色ある活動」を推進するには無理があるという指摘も納得できる。来年度以降、若干の変更も必要と考える。
- 他地域の方と交流することで、大いに参考になったという意見が多い。今後も会員の期待に応えられるよう、市P連の活動の目玉として、よりよい会の在り方を追求したい。話し合った内容についてはHPに掲載する等、全体で共有できるよう努めていきたい。
- 会場については他の会議室を借りるなど、他グループの声を気にすることなく、話し合いに集中できるような工夫が必要であろう。
- 他地域との交流の有用性を考えると、できるだけ多くの会員に出席していただきたいところだが、会員の負担も考慮し、参加者数については検討していく必要がある。来年度以降、どの立場の方に参加していただくかも含め、今後、役員会で協議していきたい。

5 話し合いの記録

(1) PTA活動を進めるうえでの困りごと

【役員選出について】

- 役員半減で7名となった。立候補制だが、男性がゼロに。選定に困っている。
- 役員は投票、くじ引き等で決める学校もある。
- 次期人事が決まらない。下の代とのつながりがないので、声がかけれない。
- 上の代の方から電話があると断れない。
- くじ、選挙だと外国人は厳しい。
- 会長を先に決め、あとは名簿投票にしている。
- 投票で幹事は2年任期だが、不公平感がある。引き受ける人は決まっている。
- 前年度会長からの推薦で三役を決めている。
- 子ども会とのからみもあり大変。
- 前年度の人が声をかけて決まってしまう。役員をやりたいくてもやれない人もいる。
- 役員数は6～15人と幅がある。基本は6年生の保護者が受けている。
- 前年度役員をやった人の中から会長を選んでいる。
- 全学年からの指名という形をとっているが、最後まで会長が決まらず困った。

【役員が忙しすぎる】

- PTA運営委員会が年に4～6回もある。食事会などはない。
- 行事が大変で業者に頼むようになった。
- 資源回収が活動のメイン。平日開催で雨になったら、休みを数日取らなければならなくなり厳しい。
- 資源回収の時、大変なことが多い。延期になった時、人が集まらない。

- 「常設だけだとお年寄りが持っていけない。集めてくれ」と声をかけられたため、資源回収を1回は実施するようになった。「常設だと、火をつけられたらどうするだ」との苦情も。
- 地区幹事も学年幹事もやらなくてはならないことがある。役員を減らしたい。

【役員としての悩み】

- 役員が決まった時に、そもそも何をすればいいのか、まったくわからなかった。
- 自営業の人が選出されることが多いが、土日などは出られないことが多い。
- コロナ明けで、わからないことが多い。よくわかっている教頭先生の異動で困った。
- コロナのせいで前例がない。また新しく始めていくつもりでやっていかなければならない。
- 仕事、子どもの習い事、核家族で子どもを預けられない等で、PTA活動との両立が大変。
- 子どもをみてる環境下なら、活動もしやすいが、誰にでもできることではない。誰でもできるように負担を減らしていかなければならない。
- PTAで決めたことが必ずしも通るわけではない。PTAは必要なかと思うこともある。
- 外国の方の家族も増え、連絡が難しい。

(2) 単位PTAの特色ある活動

- 夏祭り、海に親しむ会など
- PTA主催で射的などの縁日実施。資金は資源の常設回収から出す。
- 地域学校協働活動に力を入れている。推進員が回覧板で地域の方に声かけして、たくさんのボランティアが協力してくれている。野菜作り、プール見守りなど助かっている。
- 小中9年間、地域で子どもを教育しようという取り組みをしている。同じ中学校区の小学校で同じ考えをもって進めている。地元のスーパーなどで体験し、学んだことを授業参観で発表。自分の町を好きになることができる。

(3) PTA役員の負担軽減の工夫

【行事削減】

- 資源回収をやめて、常時回収と事業所周りのみとした。
- 常設資源回収の実施、看板を作って地域に知らせている。
- 資源回収の事業所周りを2回から1回にした。事業所周りもなしにした学校もある。
- 会合に時間がとられるので、紙面開催とする。
- LINE等の意見交換・情報共有で、集まらなくてもスムーズに行えている。(職業によりLINEが使用できない場合もある。情報漏えい)
- マラソン大会の豚汁づくりをやめて飲み物にした。
- 夏祭りをやめた。
- 役員の定例会の回数を減らした。
- PTA実行委員会を授業参観の後などに実施している。
- コロナ禍で、やらなくてもよい活動が分かってきた。
- PTAの花壇の水やり、夏休みのプール当番をやめた。

【組織の見直し】

- 学年委員を減らす。部局を減らす。
- 決められた部局はあるが、お互いをカバーしながら活動を進めている。
- コロナ禍で活動が減ったため、人数や負担を減らせた。

【その他】

- コミュニティスクール、地域協働活動、ボランティア等、PTA活動もそういうものになっていくといい。でも、PTA役員という役職は何かあった時に必要ではないか。
- 心の負担軽減は必要だが、子どもたちのためにやりたいことを提案している。
- 保護者アンケートを二次元コードで行うなど、簡略化している。
- 役員に報酬を出すのもありかと思う。
- ボランティアを募った。

6 話し合いについての役員の感想

- 会員のみなさんが、積極的に話し合いに参加していた。
- みなさん、参加してよかったと思ってくれたようだ。
- 子ども会とのかかわりもあり、苦勞をされている方が多いと感じた。
- 役員を引き受けるのに消極的な方も多かったようだが、大変なのは自分だけではないという思いが共有できたのはよかったと思う。話し合いを通して仲間意識が芽生えたのではないか。
- 地域により活動に差があるのを知ることができただけでも価値があるのでは。
- 互いに愚痴を言い合えただけでも、参加してよかったと思えたのでは。
- 話し合った内容を、グループ内だけでなく、広く共有できたらいいと思う。